

精力的に全国を駆け巡る

土地改良関係者と活発に意見交換

土地改良の代表として次期参議院選に向け活動を開始している、全国水土里ネット会長会議顧問の宮崎まさお候補は、1月に政治活動を開始して以来、精力的に全国を駆け巡り、各地で土地改良関係者の生の声に耳を傾けるとともに、世界に誇るこの日本の農山漁村を、子どもたち、孫たちに引き継ぎ、日本の未来

への礎を築くべきと『土地改良は未来への礎』を標榜し、①土地改良の予算確保にチャレンジなど、7つのチャレンジを訴えかけている。

この4月、宮崎まさお候補は、9・10日の栃木県、福島県訪問を皮切りに12日兵庫県、13日愛知県、14日奈良県、徳島県、16日島根県、17日埼玉

島県、20日青森県、24日群馬県、25日宮城県、27日富山県、連休中の5月1日兵庫県と、全国くまなく足を運んで土地改良関係者との意見交換を行った。

この4月、宮崎まさお候補は、9・10日の栃木県、福島県訪問を皮切りに12日兵庫県、13日愛知県、14日奈良県、徳島県、16日島根県、17日埼玉

宮崎候補はさらに、これらの土地改良関係者との意見交換の合間を縫って、農村振興技術連盟などの団体が地方ブロックの定期総会後に開催して

いる意見交換会（関東、東北、北陸、東海、近畿、中国四国ブロック）にも出席し、協会会員の強い要望でもある当初予算確保の必要性を訴えた。

なお、4月27日に富山県土地改良会館を訪れた際には、宮崎候補は農林水産省構造改善局建設部長を最後に退官し、その後、土地改良の代表として富山県選挙区から参議院議員となった初代富山県土連会長・桜井志郎翁の胸像を前に今後の奮闘を誓った。

福島県の土地改良関係者との意見交換では、「末端施設の再整備や農道・集落道の整備が必要」との意見があり、愛知県内では、パイプラインの老朽化に伴う突発事故対策としてのパイプラインのストックマネジメントや農地中間管理機構との連携についての意見が数多く出された。多面的機

能支払についても福島県や兵庫県で話題に上ったほか、広島県福山市内で行った意見交換会では「市街化区域と調整区域が混在した区域」における降雨に対する防災対策や農業水利施設の更新事業の遅れなど、都市農業を取り巻く課題についての意見が出された。

また、埼玉県内では、「土地改良の課題だけでなく、若い人が『夢のもてる農業』のできるような政策を実現して欲しい」との声が宮崎候補に寄せられた。

宮崎まさお

活動日誌 2



桜井・初代富山県土連会長の胸像に奮闘を誓う

宮崎候補がこれから土地改良の代表として政治活動を行っていく上で、地域の生の声を吸収することこそが大きな財産となることでしょう。「宮崎まさお活動日誌」では、引き続き、宮崎候補の日々の成長の足取りをお伝えして参ります。